

お知らせ

当院では、以下の基礎・臨床研究を他の講座と共同で実施しております。
この研究は通常の手術や病理解剖で得られた病変部・正常組織を使用することによって行います。このような研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんお一人お一人から直接同意を得ることが難しい場合には、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、下記の「問い合わせ先」へご照会ください。

【研究課題名】

トランスレーショナルリサーチによる動脈硬化関連疾患（大動脈弁狭窄症・大動脈瘤・動脈硬化性疾患）・心不全・腎不全の発症・進展のメカニズム解明

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院循環器内科

【研究責任者】 山口 修（循環器・呼吸器・腎高血圧内科 教授）

【研究の目的】

本研究では、日本人の動脈硬化関連疾患（大動脈弁狭窄症・大動脈瘤・その他動脈硬化性疾患）の方々を対象に、狭窄した大動脈弁や大動脈瘤病変、動脈硬化病変を解析することで、これらの病気の発症・進行に関わる物質を探索します。これを血中および尿中で簡易的測定することで、これらの疾患を早期に発見・診断を可能にする手法を開発することを目指しています。また、それらの物質をより詳細に解析することにより、これらの疾患の発症機序を明らかにし、治療法の開発につなげます。

【研究の方法】

「病理解剖に関する遺族の承諾書」に 2016 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日の間にご同意いただいたご遺体、2010 年から 2022 年までの愛媛大学医学部附属病院及び神戸市立医療センター心臓血管外科にて外科的切除後の病理検査検体が対象となります。一般的な治療法として大動脈弁狭窄症、大動脈瘤、その他の動脈硬化疾患（頸動脈狭窄症など）の患者さまに対して、外科的な手術治療が行われています。手術では、上記疾患の病変部を切除し人工弁、人工血管に置換

したり、動脈硬化病変を切除したりすることで治療されています。この切除病変を、当研究に使用します。

このようにして採取した病変組織やこれらより採取培養した細胞から、試薬を用いて、RNA やタンパク質という物質を抽出したり、組織染色を行ったりすることによって病気の進行や発症に関係している物質を検討しそれらの物質がどのような特性を持っているかを調べることで、動脈硬化関連疾患の病態との関係を明らかにします。加えて剖検症例の正常部を採取することで同様の検討を行い病変組織と対比します。また必要に応じて、患者様からの血液検体を分析することで病気のメカニズムの解明に役立てます。

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる個人情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

神戸市立医療センターにおける病理検査検体については、一部病態解明のために愛媛大学にて詳細な組織または分子解析を行ないますが、いずれも個人を特定できる情報は一切含まれません。

＜試料・情報の提供機関の長＞

神戸市立医療センター中央病院 病院長 氏名 木原 康樹

さらに詳しい研究の方法をお知りになりたい場合は、「お問い合わせ先」までご連絡ください。他の患者さんの個人情報や知的財産保護等に支障がない範囲でお伝えいたします。

また、この研究の対象となられる方で「ご遺族の診療録（カルテ）や保管されている試料（血液や組織など）除外してほしい」と望まれる方は下記お問い合わせ先までご連絡下さい。

【問い合わせ先】

愛媛大学大学院医学系研究科 循環器・呼吸器・腎高血圧内科
医員 青野 潤
791-0295 愛媛県東温市志津川
連絡先 089-960-5303

